

変わった世界 変わらない日本

野口悠紀雄



講談社現代新書

2261

変わった世界 変わらない日本

野口悠紀雄

講談社現代新書

2261

N.D.C. 330 286p 18cm

ISBN978-4-06-288261-3

講談社現代新書 2261

変わった世界 変わらない日本

二〇一四年四月二〇日第一刷発行

著者 野口悠紀雄 のぐち ゆきお © Yukio Noguchi 2014

発行者 鈴木哲

発行所 株式会社講談社

東京都文京区音羽二丁目二二二 郵便番号 一〇二一八〇〇一

電話 出版部 〇三―五三九五―三五二一

販売部 〇三―五三九五―五八一七

業務部 〇三―五三九五―三六一五

装幀者 中島英樹

印刷所 凸版印刷株式会社

製本所 株式会社大進堂

定価はカバーに表示してあります Printed in Japan

本書のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内の利用でも著作権法違反です。〔R〕(日本複製権センター委託出版物)

複写を希望される場合は、日本複製権センター(電話〇三―三四〇一―二三八二)にご連絡ください。落丁本・乱丁本は購入書店名を明記のうえ、小社業務部あてにお送りください。

送料小社負担にてお取り替えいたします。なお、この本についてのお問い合わせは、現代新書出版部あてにお願いいたします。



目次

はじめに

3

第1章 経済思想が大転換した

19

1 必然だったソ連崩壊

20

ベルリンの壁が開く／ソ連があっけなく崩壊する／收容所列島だったソ連

2 冷戦後の世界をリードするのは日独か米英か？

26

アメリカにとって最悪の時代だった70～80年代／日本の時代が来たように思われた

3 サッチャーとレーガンの経済改革

30

サッチャーが民営化と規制緩和を進めた／イギリスがサッチャーを求めた／レーガンの税制改革／アメリカ・イギリス型経済の復活

4 市場以外の経済制度はありえない

36

市場原理主義に対する批判は、虚構に対する攻撃／計画経済は結局のところ機能

しなかった

第2章 I-T革命

1 新しい技術I-Tの登場

I-T革命の本質は、コストの劇的な低下／小企業の優位性が高まった／シリコンバレーのベンチャー企業／企業の新陳代謝が起きた

42

2 21世紀型グローバル化／I-Tが始まった

海外アウトソーシング／I-Tで急速に発展するインド／物理的距離が問題でなくなった

49

3 垂直統合から水平分業へ

通信コストの低下がもたらす生産方式の変化／I-Tが引き起こした水平分業への移行／日本はI-Tに対応できなかった

53

第3章 市場型経済の復活

59

1	情報システムと経済体制	60
---	-------------	----

大型コンピュータの時代には計画経済が有利だった／アメリカに有利で日本に不利なIT／ソ連はITにまったく適応できなかった

2	アメリカ経済の復活	65
---	-----------	----

製造業の縮小と高度サービス産業の拡大／主要企業が入れ替わったアメリカ

3	イギリスの大変貌……脱工業化と金融立国	69
---	---------------------	----

イギリスが復活した／製造業の縮小と金融業の拡大／脱工業化が現実化した

4	アイルランドの驚異的な経済成長	73
---	-----------------	----

かつて貧しかったアイルランド／ITはアイルランドをケルトの虎にした／外資企業を迎え世界に開かれた経済／20世紀型産業国家の凋落

第4章	中国が工業化に成功した	81
-----	-------------	----

1	改革開放が軌道に	82
---	----------	----

改革開放前の圧政と混乱／社会主義経済から脱出した中国／中国の目覚ましい成長／非効率な国有企業を改革／戦略産業で高い国有企業の比重

2 台頭しつつある新しい企業

ハイアール、三一重工、レノボ／通信機器で世界トップクラスの華為技術／躍進が目覚ましい独立の民族系自動車メーカー

89

3 中国の実力を正しく評価する必要がある

積極的な経営者／中国企業についての誤解から脱却する必要／バケモノのような巨大EMS

94

4 中国経済が抱える問題

労働力不足経済に入りつつある中国／驚くべき数の企業と猛烈な競争

100

第5章 取り残された日本は円安のぬるま湯に

105

1 不良債権処理に追われた日本の90年代

80年代は本当に日本の時代だったのか？／企業・銀行のカネ余りと不動産バブル／不良債権処理と公的資金注入

106

2 大規模介入で円安に

35兆円超の大規模介入／生産の国内回帰／液晶テレビにおける垂直統合と水平分

110

3 大変化に対応できなかった日本

小泉内閣は本当に構造改革を行なったのか？／小泉内閣は、古い産業構造を温存した／90年代の大変化に対応できなかった日本／日本では脱工業化も21世紀型グローバルゼーションも起こらなかった／四半世紀に及ぶ長期衰退過程が始まった

116

第6章 100年に一度の金融危機

125

1 アメリカ住宅バブルと金融革新

大規模な住宅価格バブルが発生／サブプライムローンとその証券化／CDSの発明という金融革新／CDSは危険なものか？／価格変動リスクへの対処が必要になつた理由

126

2 金融危機の進展

証券化商品の価格下落／リーマン・ブラザーズが経営破綻

135

3 投資銀行の変貌

イギリスのマーチャントバンクとビッグバン／アメリカの投資銀行とヘッジファ

139

ンド／投資銀行が高リスク投資にシフト

4 理論を無視したから危機が起きた

ファイナンス理論の役割はリスクの評価／先端金融やアメリカ型経済が失敗したのか？／もつと詳しく知るには

145

5 アメリカ経常赤字の拡大

アメリカ経常収支赤字の推移／資本取引による黒字還流／イギリスの資金仲介機能

153

6 円安バブルの進行

アメリカ住宅バブルと無関係でない円キャリー／円安バブルで旧体制が温存された

158

第7章 リーマンショック後の世界

1 GDPが年率2ケタ減

傷が最も深かったのは、日本／マイナス10%を予測したが、信じられなかった／輸出総崩れで26年ぶりの貿易赤字／「日本の出番」どころか、日本の大危機

164

163

2 中国の経済対策と不動産バブル

171

4兆元の景気刺激策／大きな変動を経験した住宅価格／日本の輸出増に与えた影響／中国経済の減速と不動産価格の低下

3 アメリカの金融緩和策

177

QE1でMBSの価格崩壊を防止／QE2も实体经济に影響なし／何のためのQE3？／原油、金、新興国株式にも資金が回った／金融危機でアメリカから流出した資金は、南欧国債に回った

4 米中というG2の時代

184

21世紀の世界経済は米中で動かされる／アメリカと中国が圧倒的に大きくなる／覇権国の条件

第8章 日本経済が抱える深刻な問題

189

1 下落する賃金

190

現金給与総額は年平均約1%下落／産業構造の変化が給与低下の原因／日本経済の問題は、価格下落でなく所得下落／賃金を上げるにはどうしたらよいか

2 貿易赤字、脱原発、海外移転

拡大する貿易赤字／貿易赤字は一時的でなく、構造的／貿易立国から金融立国への転換が必要／脱原発への方向転換／脱原発は、脱工業化によってしか解決できない／製造業の海外シフトが加速している／製造業が国内にとどまっても、雇用は減少する

3 デフレが問題なのか？

財価格が下落、サービス価格が上昇／新興国工業化が真の原因／デフレに関する典型的な誤解（１）——デフレ・スパイラル／デフレに関する典型的な誤解（２）——実質金利が上がる／デフレに関する典型的な誤解（３）——消費者の買い控えが起きる

第9章 制御不能に陥っている日本の財政

1 財政赤字の拡大

主要国中最悪の赤字／なぜ赤字が拡大したか？／これまで順調だった国債の消化

2 消費税増税で財政再建できるか？

197

207

217

218

224

5%の税率引き上げでは財政再建できない／増税による景気後退より国債暴落の
ほうが大問題

3 「インフレ税」による実質赤字解消

なぜインフレは税と同じか／インフレが生じるいくつかのルート／インフレは最
も過酷な税

228

4 人口高齢化と社会保障

人口高齢化で社会保障給付が増える／今後10年間程度が正念場／年金の支給開始
年齢引き上げが必要

232

第10章 アベノミクスは答えにならない

237

1 異次元金融緩和政策は空回りしている

異次元金融緩和政策の導入／マネーストックは増えていない／マネーストックは
GDP成長率に影響しない

238

2 動かない実体経済

株価が上昇しただけ／設備投資は増えず、輸出数量は減少／経済の好循環は生じ

245

ていない

3 目標も手段も間違っている

消費者物価上昇率を目的にするのは誤り／円安は、貿易赤字を拡大させ、企業利益を圧迫する／石油ショック時の経験に学ぶ必要がある

250

第11章

未来を拓くために必要なのは何か？

255

1 何を目指してはいけないか？

経済法則に逆らってはいけない／製造業の復活を望むのは間違い／投資主導は間違い／アジアに売ろうとするのは間違い

256

2 何をやってはいけないか？

古いものを守ってはいけない／政府がブループリントを描くことはできない

262

3 何を目指すべきか？

高度サービス産業の構築／製造業の新しいビジネスモデル（1）——水平分業／製造業の新しいビジネスモデル（2）——製造業とサービス産業の中間／高齢者の需要を開拓する

265

4 どのように実現するか？

人材育成のために高等教育の充実を／日本活性化のために人材開国する／異質な
ものが現状を変える

272

索引

286

変わった世界 変わらない日本

野口悠紀雄

講談社現代新書

2261

はじめに

日本経済が長期的な停滞から抜け出せないのは、1980年代以降に起きた世界経済の大きな変化に対応できていないからである。本書の目的は、その変化がいかなるものであったのか、それは日本経済にいかなる影響を与えたか、それに対して我々は何をなすべきか、などを説明することだ。

80年代に生じた変化とは、一言で言えば、市場経済モデルの復活である（第3章）。それは、社会主義経済の失敗という、誰の目にも明白な形でまず現れた（第1章）。また、PC（パソコン）やインターネットに代表される分散型情報処理技術（IT）の進歩が、市場経済の有利性をさらに高めた（第2章）。

この変化は、日本には不利な方向のものであった。日本の社会構造や組織原理と、親和性がないのである。ドイツをはじめとするヨーロッパ大陸の諸国も、うまく適合できなかった。他方で、アメリカやイギリスなど、従来から市場経済的な志向が強い国には有利に働いた。アメリカやイギリスが、90年代に空前の繁栄を実現できたのは、このためである。